The background features a light beige color with several thin, black, overlapping circles and curved arrows. One arrow starts from the top left and points towards the top right. Another starts from the top right and points towards the bottom right. A third starts from the bottom right and points towards the bottom left. A fourth starts from the bottom left and points towards the top left, completing a circular path.

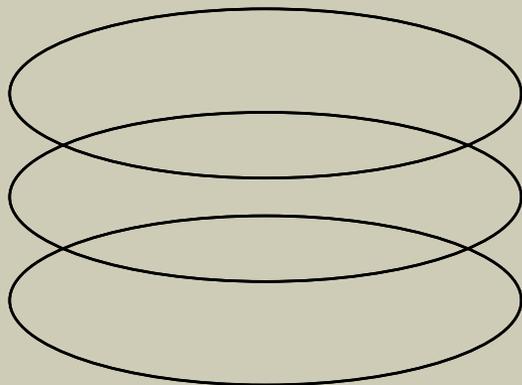
コスパ、タイパが防災にも？

防災あとまわし社会

Social/
Issue
Lab

SIL

コスパ、 タイパが 防災にも？



時間がないから。
お金がないから。
毎日が有事のように
忙しくて、余裕がない。
そんな現代社会では
防災に注ぐエネルギーが削がれていく。
命に関わるものなのに
つついあともわしになってしまう....
そんな「防災あともわし社会」の
実態を見ていきましょう。

Survey Overview

調査対象者	全国の15-79歳 ※中学生以下は除く
回答者数	2,500人
割付方法	全国7エリア*における、令和2年国勢調査の性年代の構成比に基づいて割付し世の中の縮図を再現 *北海道、東北、関東、中部、近畿、中四国、九州地方
調査方法	インターネットリサーチ
調査期間	2024年2月22日(木)~24日(土)
調査実施	株式会社H.M.マーケティングリサーチ (現 QO株式会社)

Introduction

**防災は大事。
だけど、実際の行動までは
"距離"がある。**



防災というとプレッシャーや後ろめたさを感じる。
どこか“やらなきゃいけないもの”という義務感がある。
でも、本来の防災は自分自身や誰かを守ることに繋がる、
素敵な行動の一つのはず。

そんな防災を、“やらなきゃ”から“やってみよう”へ、
それぞれのペースで考えるきっかけになることを願って。

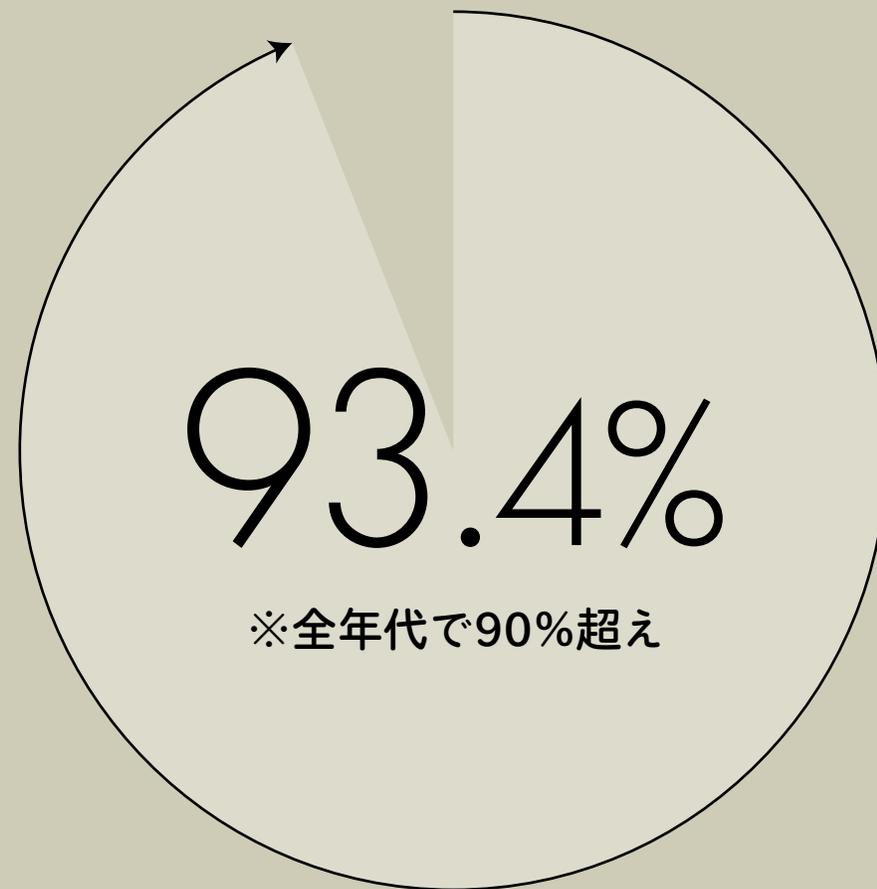


ほとんど誰もが、防災意識を重要と考えている。

“

防災意識を持つことは
重要だと思う

”



防災は、いざというときに自分や周りの人を助けるため。

防災が重要と考える理由

普段の生活をしていると
つい忘れがちになるが
いつ何時災害に見舞われるか
わからないので
(関東地方 女性70代)

いざというときに
自分や家族の命を守るから
(関東地方 女性30代)

一人ひとりの意識の
違いによって被害の大きさが
大きく変わってくるから
(近畿地方 男性20代)

用意しててもいざとなると
何もできないのが人間なので
日頃からの認識を高めるのは大切
(近畿地方 女性50代)

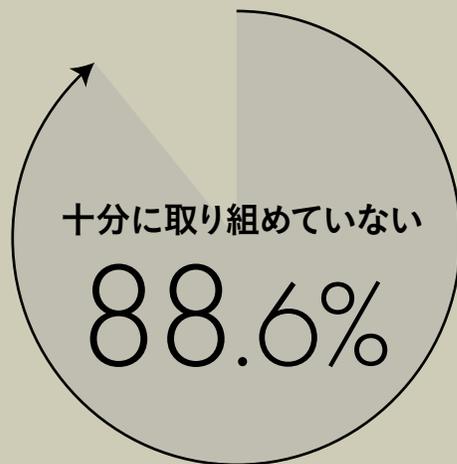
一方で、多くの人々が「十分に組み合わせていない」という現状。

それぞれの防災行動に
「十分に組み合わせていない」と回答した割合

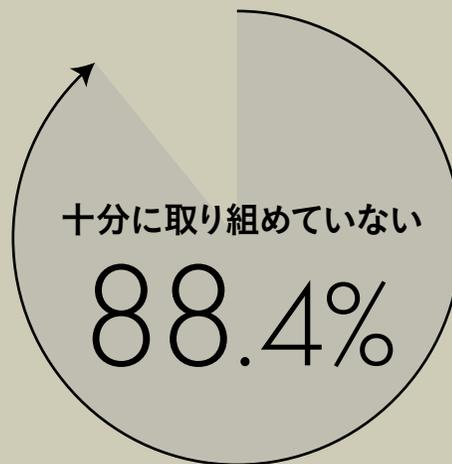
被災した時の
安否確認方法について
家族や身近な人と
相談して決めている



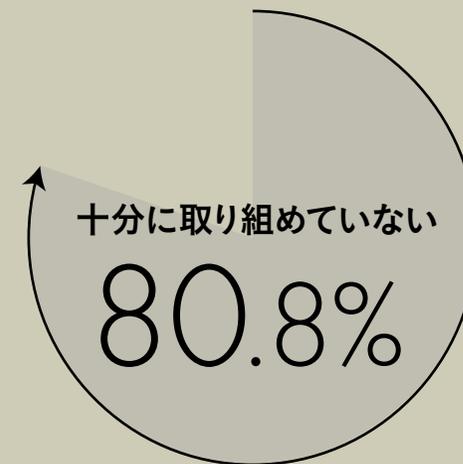
災害に備えて
家族や同居する人全員分の
水や食べ物の
備蓄品を用意している



非常時に持ち出す
防災グッズを
準備している



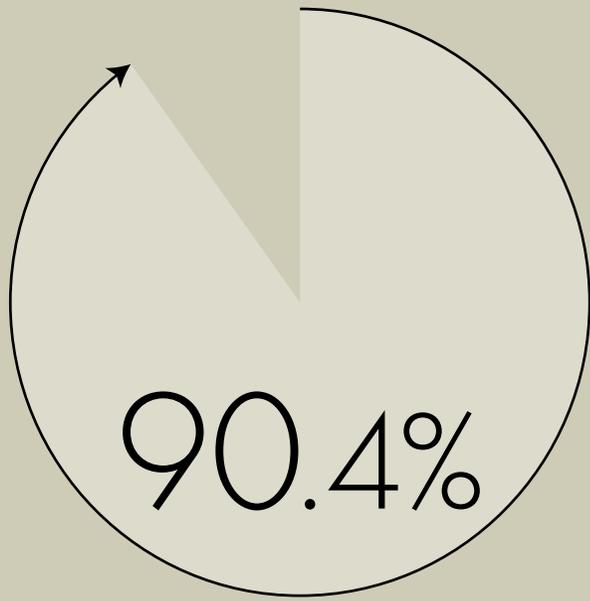
自宅で被災した時の
避難場所や避難所を
確認している



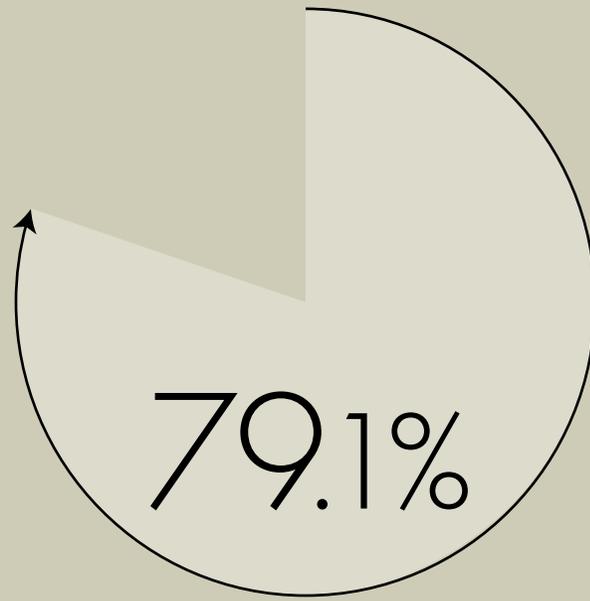
知っているだけでなく、実際の行動を起こすことの難しさ。

「非常用に3日分の水や食料を備蓄する」という防災について

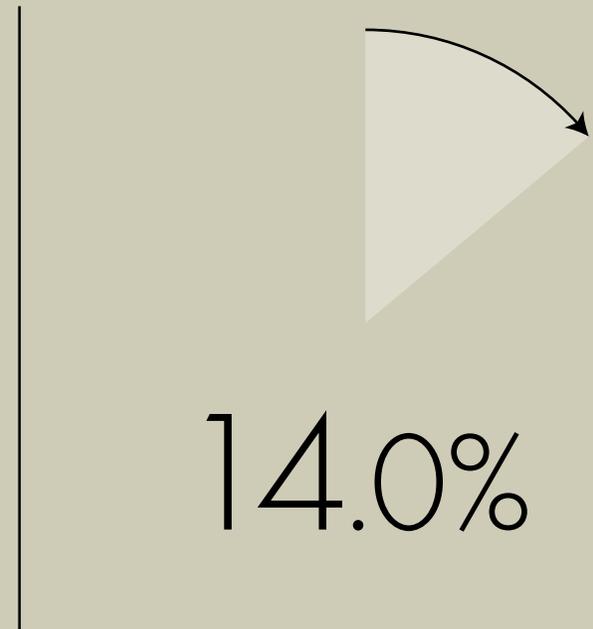
“見聞きしたことがある”



“取り組みたい”

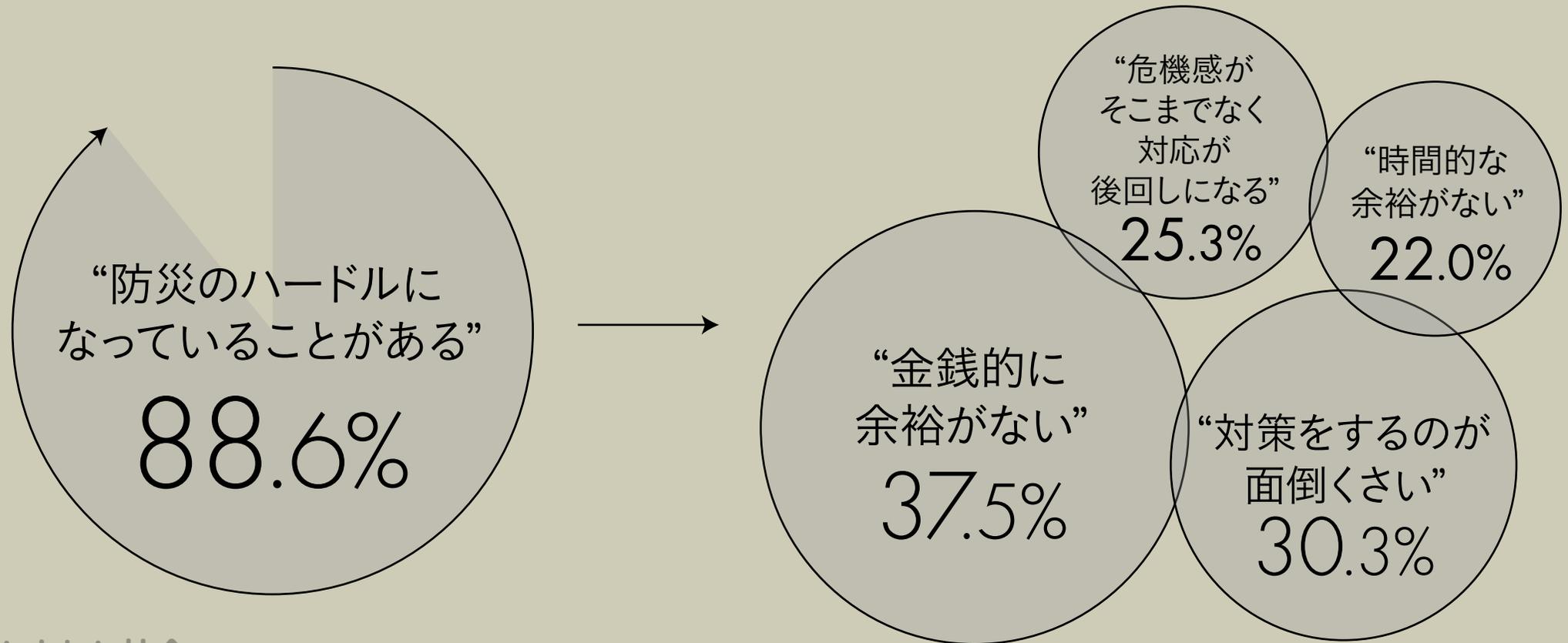


“十分取り組んでいる”



防災行動のハードルは経済的・時間的な余裕のなさ。

防災を思うようにできない理由



お金を防災にまわす余裕がない。

防災の経済的なハードルに関する実際の声

水や食料を家族全員3日分
蓄えようとする、かなりの量になり、
お金もかかるので、目の前の
生活の方が優先になってしまう。

(近畿地方 女性30代)

耐用年数を迎えて
無駄になるかもしれない
防災グッズを買うのは
勿体ないように思うため。

(東北地方 男性30代)

十分な防災グッズの蓄えや、
定期的なメンテナンスを
しようと思うと初期費用と
維持費がかかり過ぎてしまう。

(近畿地方 男性30代)

防災グッズに加えてガラスや
食器などへの防災対策や、
家具転倒防止対策、
感震ブレーカーなど費用がかかり
家中の対策をするのが困難。

(中部地方 女性40代)

防災が“いくらやっても終わらない”プレッシャーにも。

あなたにとって防災とは――

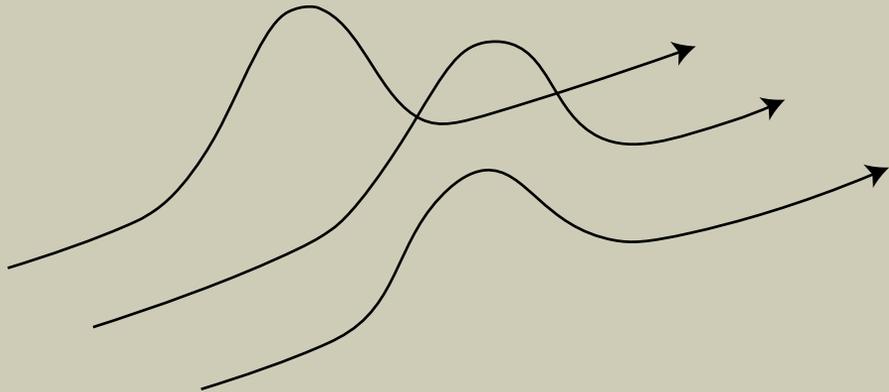
地震、津波、火災など多くの災いに対して、食料、住居、避難場所、保険など多岐にわたる対策を講じるため掛け算的にやることが増えていく印象。

いくらやっても終わりが無い。現在は居住地区の倒壊リスクやハザードマップからあらかじめ掛ける数字が減るように意識している。

(関東地方 男性30代)

Consideration

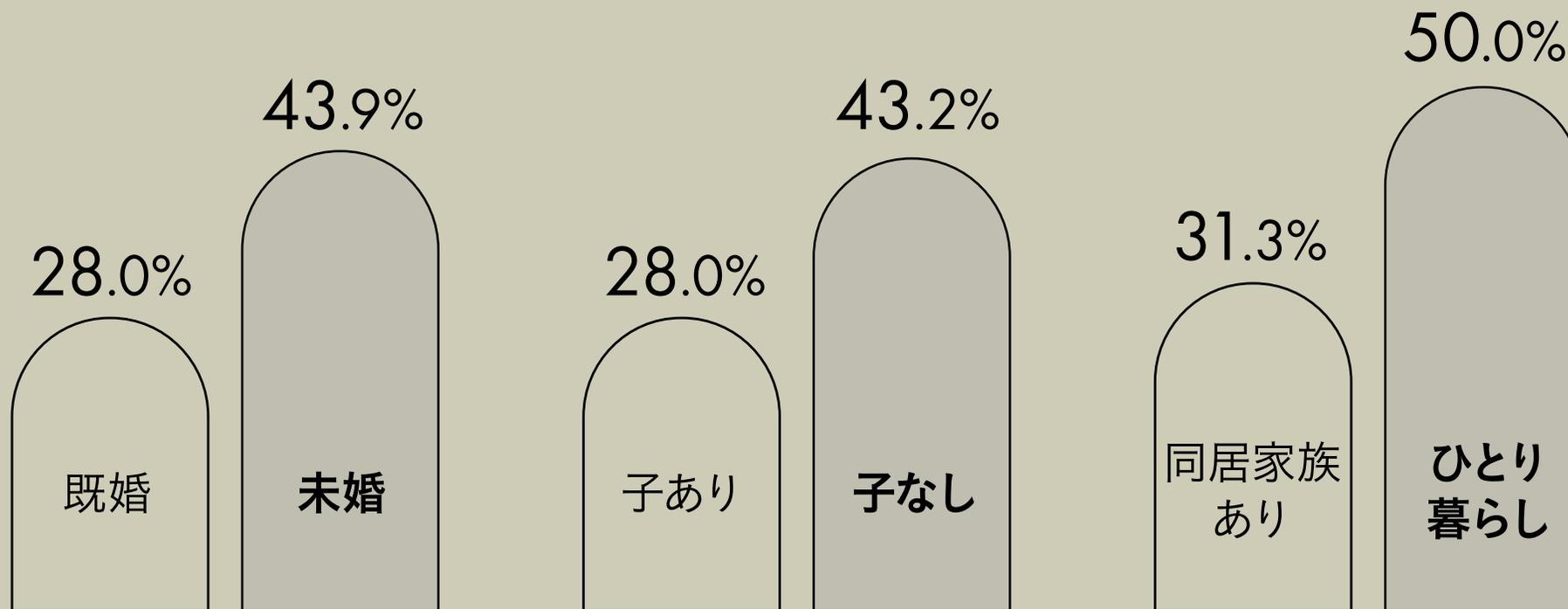
防災行動が 一歩進んでいる人に ヒントあり。



今回のリサーチで、
「自分のためだけに防災をすること」が
つつい後回しになるということが分かった。
裏返すと、誰かのためを思うと、防災も身近になる。
そして、それらは結果として自分自身の身や
心を守ることにも繋がる。
また、過去に学んだことが、
今の防災に繋がっている様子も見られ、
一つ一つの活動が決して無駄ではないことが分かる。

自分自身のためだけの防災は **後回し** になりがち。

防災取り組み度が消極的な層の割合



誰かのための防災という気持ちに“前進”のヒントあり。

防災に積極的に取り組んでいる方の実際の声

緊急事態にパニックを起こさず、家族や周りの方達にも迷惑をかけないように、一人一人が防災意識を持つ必要があると思います。災害にあった時は、自分のことで精一杯になります。それでも高齢者や子供、身体に不自由のある方は助けを必要とすると思います。そのような方達の援助を最優先にさせていただくためにも自分自身の備えは十分にしておく必要があると感じています。そうすることで気持ちに余裕ができ、自分も援助する側に回れるようにしたいです。

(近畿地方 女性50代)

家族やペット、周りの人を含めた、誰かのために。

防災への想いに関する実際の声

いざという時大災害から自分の身や大切な人を守るための準備が必要だから。

(関東地方 男性20代)

自分の住む地域では震源地ほどではなかったが、家族や親戚の人たちが被災して甚大な被害があったのを見たので。

(東北地方 女性70代)

自分の外出時の災害時、介護の必要がある家族のことが心配。

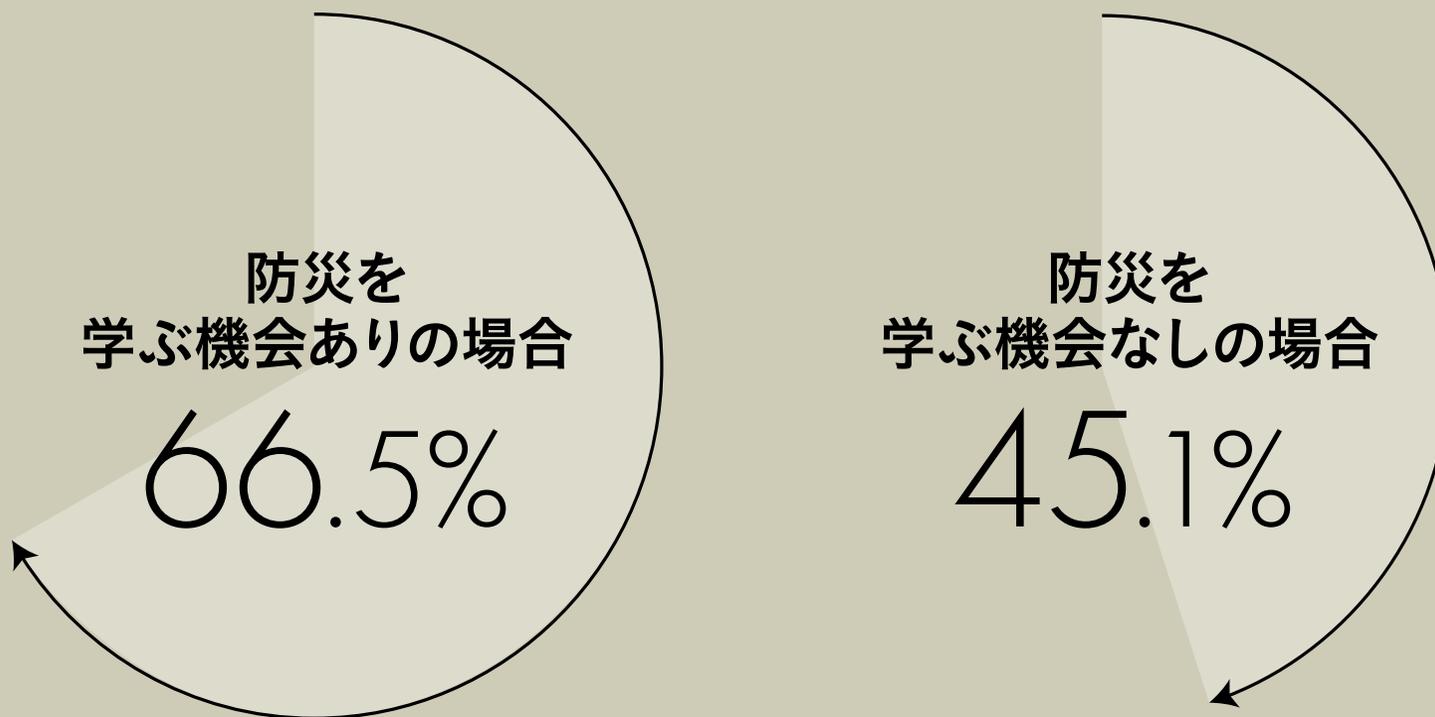
(関東地方 女性60代)

病気の母親を見てて、可愛い犬も助けてあげたいために重要と思っている。

(九州地方 女性50代)

過去に一度でも学ぶ機会があれば、防災が前に進んでいる。

災害に備えて、家族や同居する人全員分の
水や食べ物の備蓄品を用意している割合の差



過去の一つ一つの取組みが、将来になって実を結ぶことも。

防災意識が高まった↑きっかけ

毎年地域の防災訓練を
子供の頃にしていたことで、
みんなと協力する
大切さを学んだ
(中部地方 男性20代)

東日本大震災の話を
ドキュメンタリー番組で学び、
自分も対処できるようにと
色々調べた
(関東地方 男性20代)

20年くらい前の自治会の
取組みで、消防署で防災の
話を聞いて他人ごとではない
と思った
(関東地方 女性70代)

自治体での研修で、
説明が具体的でわかりやすく、
防災意識が高まった
(関東地方 男性50代)

Conclusion

防災が
“やらなきゃ”から
“やってみよう”
になることを願って。

防災というものは、ほとんどの人が「大事である」と同意すると同時に、「やらなきゃいけないけど、できていない」といった、後ろめたさやプレッシャーを感じるテーマであることが、リサーチを手掛けていく中で見えてきました。

差し迫っていないために後回しになったり、時間やお金の余裕のなさがそれに拍車をかけたりといった難しさにも直面します。

ただ、それだけでなく、やってみると自分にも周囲にも良かったという声や、過去の学びが生きたという体験を知ることもできました。

防災が「やらなきゃ」から「やってみよう」へ。

自分や周囲にとって少しでも前向きなものになることを願って、この実態と一人一人の声をお届けしながら、わたしたちももう一步踏み出したいと思いました。